

# アカシア探険隊

～MI・2008

江戸城潜入の巻～



72回 喜久川 政樹 氏

～株式会社ウィルコム代表取締役社長～

め組の頭 辰五郎：

オ～イ、今日は徳田新之助様の所にご機嫌伺いに出かけるぞ。気張って支度しろい、ってんだ。

辰五郎の妻 おさい：

ハイよお前さん。準備万端だよ。朝からソワソワしてるあんたの様子見てりゃ、「お出かけだな」って判るってもんさ。だけどサ、なんだって急に？

辰：オー、それを聞けてんだ。新之助様がヨ、実はPHS会社の親玉をなさってたとは、さすがのお前も知るめえ。それが俄かに江戸表だけじゃなく、日本津々浦々に知れ渡ってヨ、今じゃ瓦版屋達に追っかけ廻されてるって寸法よ。そんな大忙しの新さんがヨ、是非俺たちに会いたいっておっしゃるんだ。

お：へ～、なんでなのサ？

辰：同窓のお偉方から、「俗称：徳田新之助(本名：喜久川政樹)から最近のモバイル業界の話しやら、同窓生・現役生徒達へのメッセージをインタビューしてくる事」って言うお達しがあったもんで、それをお願いしたら、快く受けて下さったってわけヨ。瓦版屋達にゃあ話せないような事も俺たちには楽しく話せるってもんよ。

お：へえーあの中学高校時代に「暴れん坊將軍」だった新さんがねえ。(中学高校時代は正反対だったのに)悪代官やら悪商人達を懲らしめるだけじゃなくて、今じゃ通信通信業界でも大活躍ってわけかい。飲み会で



江戸城 松の間でインタビュー

「マツケン」の真似して騒いだり、「成敗！」なんて決めゼリフ吐いてるだけじゃなかったんだねえ。

辰：バーロー！つまんねえ事言ってるじゃねえ！急がねえと江戸城松の間でお待ちかねでエ。

と、いうことで今回はモバイル／通信業界の「マツケン／暴れん坊將軍」ことアカシア72回生の(株)ウィルコム代表取締役社長 喜久川政樹さんの登場です。



辰：本日は大変にお忙しいところ、お時間を割いていただき有難うございます。

喜：ようこそ江戸城松の間へ(笑)。よくお越しくださいました。(実はウィルコム中四国支店の応接室)

お：早速ですが、現状のPHS事情についてお話しいただけますか？

喜：昨今のモバイル通信事業は複雑化していて、一言で申し上げるのは困難です。ただ、私どもが目指しているのは「様々な通信(通話、データ)シーンに於いて、最適で最善ものを利用者に分かり易く提供する事」です。数年前は、多くの通信事業者がPHS市場から撤退し、日本発の素晴らしい技術であるPHS自体が消滅しつつありました。しかし我々は前述の理念に基づき、事業を粘り強く継続して参りました。その結果、「最適で最善なソリューション」が再評価され、お蔭様で携帯電話とは少し違ったマーケットでイニシアティブを頂いております。

お：「モシモシ、ハイハイ」の通話は勿論ですが、その他の法人・個人利用のデータ通信分野も含めて、大いに可能性が広がっていますね。また、日本のみならずアジアでの事業展開も有望なようですね。

喜：日本は勿論、アジア各国でもPHSの利便性が再評価されています。インフラ整備にお金の掛からない、高品質で高速な通話・通信事業をこれからも押し進めて行きたいと思っております。

辰：話は変わりますが、中高時代の思い出をお話し頂けますか。

喜：中高時代はバレー班に所属しておりました。今はどうだか分かりませんが、当時のクラブの練習は結構厳しかったと思います。バレー班自体も私の2期上までは県でも上位に位置していました。また、他のクラブ



## Profile

昭和38年7月1日広島市中区生まれ、57年3月広島大学附属高等学校卒業、62年3月早稲田大学商学部卒業、同年4月第二電電株式会社(現KDDI株式会社)入社、平成7年DDIポケット株式会社(現株式会社ウィルコム)に転出。相互接続業務をはじめ、事業戦略の立案、料金プランの立案、他事業者とのアライアンス構築など、経営企画業務に従事、14年取締役経営企画本部長、16年10月執行役員経営企画本部長、17年2月DDIポケット株式会社から株式会社ウィルコムへ社名変更、18年10月代表取締役社長

もレベルが高くて、サッカー、軟式野球も県代表レベルでしたね。種目は違いましたが、お互いライバル視して切磋琢磨していたと思います。そのほかの思い出としては、やはり附属特有の「体育祭」が挙げられますね。私は赤軍の選手団長をやらせて頂きました。ただし、色々あって「当日だけ」特別に参加させてもらいましたが。

辰：はあ？

お：あ、いや、それは私も1学年下でしたからよく知っていますが、深く突っ込まないで。何しろ喜久川さんは当時「暴れん坊將軍」だったわけで…。(中高時代の様子から今の姿は全く想像できないヨ。それに昔は京本政樹ばりに細くて格好良かったんだけどねえ。)

喜：いいんですよ。当時は本当に出来の悪い、素行の良くない生徒だったんですから(笑)。広島アカシア会11月例会での講演では口頭で多少触れさせていただきましたがとにかくこの誌面では言えない思い出ばかりです…。そんな私でも、卒業して26年



アンテナの苦勞話に力がいいる

も経ったのに、例会で卓話をするとなると、数十人の上級生・同級生・下級生が集まってくれます。そういった意味では、附属の学園生活全てが、結果論的にみても一生の友人・先輩後輩を作る時間だったと思います。

辰：附属高校卒業後は早稲田大学に進学され、その後DDI(現ウィルコム)に入社されたわけですが。

喜：はい。中学入学後、典型的な落ちこぼれ(それ以上?)の生徒になり、先生方やその他の方々に色々・様々なご迷惑を掛けましたが、浪人時代に「これではいけない!」と一念発起しました。今は入試制度も変わっているのでもいえませんが、偏差値30~35程度から逆襲しました。そして大学入学後はひたすら単位習得のみに励み、これ以上親に迷惑を掛けないようにしました。就職に関しては、「これからは通信」という漠然とした思いで決めましたが、それが大きな間違い(?)でした。



さすが、パソコンの画面でわかりやすく説明いただけた

辰：と、言いますと?

喜：通信事業の会社に入ったわけですが、カッコいい仕事は全然ありません。通信アンテナを立てるために南

は沖縄から北は北海道まで、長靴と作業服を着て歩き廻っていました。東京の本社には殆どいません。今の通信業界の社長でアンテナを立てる為に奥地に踏み入り、挙げ句の果てにクマに襲われた経験があるとか、土地の買収交渉を直接した経験があるとかいうのは私だけでしょうね。

お：ずいぶん苦労されましたね。

喜：地方(周辺地域)を廻るのはそれなりに大変でしたが、逆に楽しみもあり、それほど苦痛には感じませんでした。日本各地の様々な風景や風俗・文化に触れることも出来ましたしね。ですが、ライバル会社が次々とPHS市場から撤退して行くのを見て「おいおい、我が社は大丈夫なんかつ!?」っていう思いはありましたね。

辰：それらの経験を踏まえ、現役生徒諸君にメッセージをお願いできますか?

喜：諸君はこれからの人生で色々な苦難(ハードル)に必ずぶち当たります。しかしそれらの苦難は、実は全て神様が与えてくれているチャンスなのです。私の経験では、頭のいいと言われる人ほど、この「苦難」をうまく逃れ、楽しつつも、実はチャンスを選んでいます。是非「愚直」に苦難にチャレンジして、人生をいい方向に切り拓いていってください。

お：お〜。キクさんならではのコメントですね。続いてアカシアメンバーへのコメントもお願いします。

喜：アカシア会という組織は同窓として単に昔を懐かしむという組織ではなく、時代を超えた(また体育祭や班活動などの経験共有も影響して)共通の方向性を持っている稀有な組織だと思います。東京アカシア会においては、何か会として「日本」のためにできることはないかと模索し始めたところですよ。私もまずは自分の仕事を通し、移動体通信の中では小さい事業ながらも、日本の役に立てよう頑張りたいと常に思っていますので、応援宜しくお願いいたします。



辰五郎の妻 おさい：

ね〜、アンタあ。やっぱり新さんっていい男だねえ。言うことなんかも決まってるじゃないか。

辰五郎：

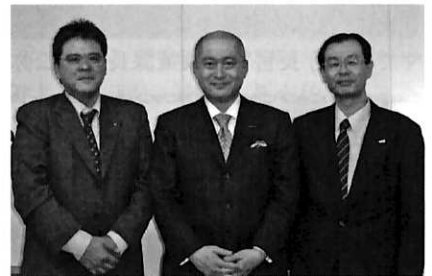
お〜、あつたりめえよ。なんたって俺達の同窓だからな。だけどおめえ、まさか新さんに「ほ」の字になったんじゃねえだろうな。

辰五郎の妻 おさい：

馬鹿だねえ。あたしゃアンタだけだよ。

お後がよろしいようで。

中本 泰弘(65回)  
谷口 公啓(73回)



左から谷口公啓(73回)、喜久川政樹氏(72回)、中本泰弘(65回)

## 『新・教師列伝(下)』の予約受付を開始!

会報に連載され好評だった小山清先生の「教師列伝」をまとめた冊子、「新・教師列伝」シリーズの最終巻(下)が3月に刊行されます。今回は事前に予約注文を取り、冊子ができ次第、予約した方に振込用紙を同封してお送りします。

— 既刊の「新・教師列伝(上)」「新・教師列伝(中)」も、アカシア会にて、各1冊1000円で好評販売中! —

(著者のことば)

1口3000円(5冊分)で、注文を受け付けます。注文が50口になりましたら、印刷にかかります。

【予約注文】メール・FAX・葉書で、お早目にアカシア会まで。

「新・教師列伝(下)の注文」と明記、

- ① 「何口(何冊)を申し込みます」
- ② お名前(卒業回)
- ③ 冊子を送付する住所
- ④ 電話番号(メールアドレス)

— 「新・教師列伝(下)」の内容 —

掲載される先生方：[明治時代に赴任] 牧 一、原 貫之助、永野武一郎、篠崎敏治、松原 厚、飯島東太郎、山田権三郎、横手元伸、山本政人、川手笹市、上野賢知、[大正時代に赴任] 梅林寺 昂、幣原 坦、守内喜一郎、山本 寿、浅井 実、塚本常雄、安部 新、山口俊彦、中田俊造、石黒 立、西田利八、井芹善蔵、森田良克、清水芳徳、長谷川与三治、松村修三、安達成之、金光弥一兵衛、大浦精一、渡辺豊市、古屋製婆丸、高橋彦三郎、津田芳雄、内田泉之助、一色智二、華岡鋭蔵、関原吉雄、林 実、湯浅初男、大槻正一、佐藤仙一郎、[昭和に赴任] 堀尾茂光、柳井可也、戸田豊三郎、奥田 明、嵐 紫郎、佐藤清太、竹内尚一、結城清一、鎌田芳雄、榊井迪夫、山本博之、塚部 正、山口義男、山崎英夫、菅 正巳、仲 頼次、寺田角一、[昭和20年以降に赴任] 寺田照之助、錦郡 昇、清水 博、原田直紀、三迫初男、石田一三、御沢金弥、岩竹 亨、植田 八郎、杉山 巍、森岡文策、和田日出夫、オールピン、カルグレン、三好 稔、常重八重子、岡村貞雄、白神澄二、板野暢之、丸本婦美子、村上 誠、萩野源一(以上81名)  
巻末付載「校歌作詞者 田中好賢伝」